

森・川・海 命の源流

～第30回全国豊かな海づくり大会と 生物多様性の保全への取り組み～

読者の皆様方は、岐阜県についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。全国各地から毎年非常に多くの観光客が訪れる飛騨高山、或いは江戸時代の儒学者 林羅山が有馬、草津とともに「天下の三名泉」と称した下呂温泉、または伝統漁法である長良川鵜飼や小瀬鵜飼を真っ先に思い浮かべる方も多くいらっしゃるかと思います。

本県は、古来よりその地理上の特性から飛山濃水の地と言われ、飛騨地方の標高3千メートルを超える山岳地帯から、美濃地方の海拔ゼロメートルの水郷地帯まで、変化に富んだ地形と豊かな自然環境に恵まれております。

岐阜県は日本列島のほぼ中央に位置し、南北の生物相が交わる地域であり、この豊かな自然環境は、オオサンショウウオ、ハリヨやライチョウなどの希少な野生生物をはじめ、非常に多様な生き物を育んでいます。また、岐阜県は「木の国・山の国」といわれますが、太平洋と日本海の両方に注ぐ流域を有し、生息魚類数も100種を超える「水の国・川の国」でもあり、本県を源とする豊富な清流は、人々の暮らしを支えています。本県ではこうした多様な生き物や豊富な清流を守るため、さまざまな取り組みを行っています。具体的には、県土の8割を占める森林の健全な保全・育成や森

林資源の循環利用などによる持続可能な森林づくりを進めるとともに、河川を整備する際には、産業界や学术界、市民団体、行政が協働して自然環境の保全に配慮した工法を取り入れるなど「自然共生川づくり」にも取り組んでいます。さらには、「岐阜県レッドデータブック」の作成や、保護を必要とする希少野生生物や保護区を指定するなど、希少種の保護対策にも積極的に取り組んでいます。

こうした中、本年6月12日から13日にかけて本県岐阜市や関市を会場として「第30回全国豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会」が天皇皇后両陛下をお迎えして盛大に開催されます。全国で初めて河川で開催される本大会では、「豊かな海は、豊かな森と川がはぐくんでいる」ということを岐阜県から全国に発信していきたいと考えています。

その一つの試みとして、川から森や海を考え、あるいは森から川や海を想うといった視点を川の上下流の全ての人が共有し、それぞれの地域で水環境の保全に取り組んでいくことが大切であることを訴えていくため、回遊魚をイメージした回遊旗に、県内外の沿川の知事や市町村長、小学生の皆さんたちに寄せ書きメッセージを書いていただきました。大会当日は、この回遊旗を大漁旗とし

岐阜県知事 古田 肇



て鵜飼用の舟で清流長良川を上ることにより、上下流連携の意識を共有するとともに、全国に「清流の国ぎふ」をアピールしたいと考えています。

また、海づくり大会にあわせ、県内各地で川の清掃活動や、小学生によるアユの放流、ホテルの観賞会、自然共生川づくり勉強会、美術館・博物館における水をテーマにした作品展の開催、各種農業体験などが行われており、こうした活動を通じて、県民の皆さんとともに、ふるさとぎふの自然と環境を守る取り組みを進めていきたいと考えております。

また、本年10月におとなりの愛知県名古屋市でCOP10（生物多様性条約第10回締結国会議）が開催されます。岐阜県としても、地域の皆さんが生

物多様性を保全することの重要性について理解を深めると同時に、世界の190を超える国・地域から集まる皆さんに、この地域の豊かで美しい環境やそれらを保全する取り組み、あるいは歴史や文化などに触れていただき、感動を持ち帰っていただきたいと考えています。

こうした海づくり大会やCOP10を通じて、ふるさとの森や川を守り、そこにすむ生物の多様性を保全していくことの大切さについて、まずは地域に住む私たちが認識を共有することが大事だと思います。それにより、自然や環境への関心が高まり、環境を守る活動が広がっていくものと期待していますし、再来年に開催が迫った「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」にもこの取り組みをつなげていきたいと考えております。



回遊旗（流域首長による奇書旗）



自然と共生する川づくりのための調査